



当面の方針を確立した盛岡支部(上)・青森支部(下)大会



第31回国労青森支部定期支部大会

平和・安全の闘い、組織拡大を確認 ＝両支部で定期大会開催＝

大会は、菅原高明副委員長の挨拶で始まり、議長には小笠原勝豊代議員(盛岡駅連合分会)を選出し議事に入った。最初に佐々木研司委員長が「安倍首相は政労使協議を開催しているが、賃上げ・賃金制度は労使の交渉によって決定されるものであり、政治の介入は許されない。福島第1原発事故の収束もできない中、川内原発の再稼働・原発の海外輸出など国民の生活を脅かしている。戦争をさせない・憲法を守る・脱原発の闘いを強化しなければならぬ」と花巻市議会議員選挙では阿部

一男さんが北上地区協を中心に取り組み10期目の当選を果たした。来年の統一自治体選挙勝利に向け取り組みを要請する。北上工務分会で、主務職の仲間と若い組合員2人が国労に加入した。若い仲間が国労の正しい運動を伝え、組織を大きくしていくことが責務である」と挨拶。来賓挨拶の後、6人の国労議員団より議会報告と挨拶を受けた。その中で阿部一男花巻市議会議員から、選挙戦の取り組みに対する感謝と決意を込めた挨拶を頂いた。討論では、◎3人の組織拡

＝盛岡＝ 組織拡大・合理化・賃物問題で議論

第36回盛岡支部定期大会(約40人参加)が11月8日盛岡国労会館で、第57回青森支部定期大会(約60人参加)が11月9日に青森県労働福祉会館で開催された。両支部とも安倍政権の推し進める危険な政治路線に反対し、戦争をさせない・憲法を守る闘いや安全に働き続けられる職場を求める労働条件改善の闘いと結んだ国労組織の拡大などに地方本部と一体となり取り組んでいくことなどの意思統一を図った。

安全・安心、人と環境にやさしい輸送サービスを

◇青森県交運労協定期総会◇



＝反自民の選挙の闘いも確認された総会＝

第22回青森県交運労協定期総会(約70人参加)が11月21日青森県労働福祉会館で開催され、国労から高瀬貴弘青森

支部執行委員と私、工藤忠久(青森地区協事務局長)が代議員として参加しました。総会議長に阿部(鉄講労)代議員を選出し進められ、はじめに山内裕幸(運輸労連)議長から青森市議会議員選挙で交通運輸労協推薦の斎藤憲雄市議・秋村光夫市議2人の再選を勝ち取ったことに対しお礼がありました。また当日安倍内閣の衆議院解散もあり「アベノミクスの失敗を国民になすりつける大義のない解散であり断じて許すわけにはいかない。県交運労協に結果する全ての仲間は反自民の闘

いを強化していこう」と挨拶がありました。来賓3人の方々から挨拶がありました。特に東北交運労協の氏家議長から「自公政権は労働諸法を次々と改悪し、大企業利益優先の施策を展開し労働者・弱者がより底辺に向かう社会へと導いている。また、平和憲法の改悪準備を着々と進め「戦争のできる国づくり」へと急ピッチで突き進んでいる。私たちはこれまで交通運輸労働者として培ってきた団結力の力をもって労働者・国民が安心して生きていける社会を創っていこう」と力強い挨拶がありました。

総会は経過報告・決算報告の承認と2014年度運動方針・同予算案が満場の拍手で採択されました。役員改選では山内議長が再選され、国労からも阿部一久支部委員長が幹事になりました。最後に総会宣言「誰もが安全・安心人と環境にやさしい輸送サービスの提供」にむけ総力を挙げて奮闘していくことを確認し総会を終わりました。総会終了後、結成20周年記念レセプションが開催され交流を深めました。青森地区協 工藤 忠久

大を勝ち取った。ここからがスタートでありゴールになってはいけない。◎他労組に不満を持っている若い組合員との交流があり話している。◎検修合理化により出向した非正規社員も正社員と同じ仕事をしているが賃金格差が大きい。来春闘は出向先の労働条件改善と賃上げのためストで闘うべき。◎貨物は15年連続ベアゼロ、夏季手当1・25カ月の超額回答で生活が厳しい。職場集会・現場長要請・門前集会を今後も行う。などの発言があった。中堤聡司書記長代行が「安全で安心して笑顔で仕事のできる職場づくりが必要。2015年春闘では大幅賃上げ獲得

大会は、阿保光春副委員長の開会あいさつの後、大会議長には八戸工務分会の北上常義代議員が選出され議事に入った。主催者挨拶の阿部一久支部委員長は「笹山賀前副委員長の死に私たちが大きく衝撃を受けた。青年部時代から仲間の中心となり支部書記長をはじめ数々の任務をこなし青森支部には無くてはならない人だった。これまでの運動と功績に敬意を表すとともにご冥福を祈りたい。10月26日投票でおこなわれた青森市議選では、国労議員団の「斎藤

のりお」氏が厳しい選挙戦を勝ち抜き5期目の当選を果たした。支援単組・団体そして組合員・ご家族のご支持ご支援に深く感謝します。引き続き来年の統一地方選の勝利に全力を挙げていくこととします。安倍政権は原子力政策推進、消費税・社会保障費値上げなど弱者救済に程遠い政策を推し進め、日本を再び戦争のできる国に変えようとしている。平和憲法を擁護し、平和と民主主義を守り、国民が安全に安心して暮らせるよう一日でも早く政局を変えなければならぬ。国労の第一の

闘争課題は組織拡大だ。JR東日本では「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」により外注化が拡大し、北海道新幹線開業により職場環境が厳しくなるなど不安が広がっている。これまでに以上に分会活動の活性化を図り、問題解決を図ることから信頼を築きあげ、組織拡大へと結び付けていこう」と市議選のお礼と組織拡大への決意を述べた。

支部執行委員 高瀬 貴弘

＝青森＝ 北海道新幹線開業での職場不安も



第47回衆議院議員選挙が12月2日(火)に公示され14日(日)の投票にむけ選挙戦が展開されている。地方本部が推薦する社民党

得、貧困と格差の是正に向け職場から闘っていこう」と集約し向う1年間の運動方針が

確定された。最後に佐々木研司委員長による団結カンパロで閉会した。

公認の岩手1区の細川光正候補も新自由主義による貧困の拡大に反対し、政治を国民の手にもどし、戦争させない国づくり、平和と民主主義擁護し安倍内閣が勝利すれば、ますます強権政治が加速するというところだろう。大企業や投資家重視の経済政策を押し進め、労働者へは首相が直接経済団体に賃上げを申し入れたのだからいだろう。また、閣議決定がなされた「集団的自衛権の行使」もさらに踏み込んで憲法改正へと進む可能性も否定できない。もちろん、閣議決定と憲法改正とはそこまでのプロセスが違ふと批判されるかもしれないが、私たちはどうやって対抗すればよいのであろうか?それについて色々考えたが、やはり答えは民意を反映するために、投票権をより多くの有権者に行使してもらえないかと思う。「それは選挙管理委員会の仕事だ」とおしかりを受けても

この情報が皆さんに読まれるころには、衆議院選挙の最終盤が開票結果が出てくるかもしれない。「伝家の宝刀を抜く」とはよく言ったものだ。このタイミングを虎視眈々と狙っていたのである。それはともかく、現時点ではっきりしていることは、もし安倍内閣が勝利すれば、ますます強権政治が加速するというところだろう。大企業や投資家重視の経済政策を押し進め、労働者へは首相が直接経済団体に賃上げを申し入れたのだからいだろう。また、閣議決定がなされた「集団的自衛権の行使」もさらに踏み込んで憲法改正へと進む可能性も否定できない。もちろん、閣議決定と憲法改正とはそこまでのプロセスが違ふと批判されるかもしれないが、私たちはどうやって対抗すればよいのであろうか?それについて色々考えたが、やはり答えは民意を反映するために、投票権をより多くの有権者に行使してもらえないかと思う。「それは選挙管理委員会の仕事だ」とおしかりを受けても



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 佐々木 力
編集者 及川 孝
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2014.12.10
第1476号

拡大キャッチコピー
「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

当面の主な日程
▽12月15日(盛岡) 盛岡支社経営協議会
▽12月18日(盛岡) 第24回岩手県交運労協定期総会
▽12月20日(盛岡) 盛岡支部旗開き

地本交渉委員・職能別協議会合同会議
地本・支部役員組織対策会議
▽1月11日(青森) 青森支部旗開き
▽1月12日(盛岡) 盛岡支部旗開き

第47回衆議院選挙12月14日投票開票
岩手1区は細川光正
比例代表は社民党

この情報が皆さんに読まれるころには、衆議院選挙の最終盤が開票結果が出てくるかもしれない。「伝家の宝刀を抜く」とはよく言ったものだ。このタイミングを虎視眈々と狙っていたのである。それはともかく、現時点ではっきりしていることは、もし安倍内閣が勝利すれば、ますます強権政治が加速するというところだろう。大企業や投資家重視の経済政策を押し進め、労働者へは首相が直接経済団体に賃上げを申し入れたのだからいだろう。また、閣議決定がなされた「集団的自衛権の行使」もさらに踏み込んで憲法改正へと進む可能性も否定できない。もちろん、閣議決定と憲法改正とはそこまでのプロセスが違ふと批判されるかもしれないが、私たちはどうやって対抗すればよいのであろうか?それについて色々考えたが、やはり答えは民意を反映するために、投票権をより多くの有権者に行使してもらえないかと思う。「それは選挙管理委員会の仕事だ」とおしかりを受けても

農業にも影響大の規制緩和

＝食とみどり、水を守る全国集会/東京＝

「第46回食とみどり、水を守る全国集会」が11月28・29日の2日間に亘って東京都・日本教育会館にて開催され、地方本部からは「食とみどり、水を守る労働者市民会議」幹事である菊池要執行委員が参加してきました。

全体シンポジウムでは農の社会デザイン研究所代表・葛谷栄一、市民政策アナリスト・奈須りえ前大田区議会議員、農民「置賜自給圏推進機構」常任理事・菅野芳秀の三名によるパネルディスカッションが行われ、「農業の分業化と専門化が進み自給世界が喪失。生産と消費の直接的なコミュニケーションが地域発展には重要」（葛谷）、「小泉構造

改革は大きな歪みを創り出し、安倍政権による「特区」での規制緩和は問題。地方自治は民主主義の学校であることの再認識を」（奈須）、「農業を産業として自立させることは日本から農業を引きはがしてしまう。自給、自立の文化と学びが求められている」（菅野）としていました。

2日目の分科会では「原発問題入門」原発はなぜ危険なのか（原子力資料情報室・上澤千尋）と「都市と農業の新しい関係を目指して」白石農園の取り組みから（体験農園「風のつこう」・白石好孝）の講演が行われました。原発問題入門では人類とエネルギーの関わりについて問

題提起がされ、ハード面だけでなく節約等のソフト面も含めて省エネルギーに取り組んでいくことが重要であると言われていました。また、都市と農業では地域における小さな家族経営の増加が農業立国「日本」の核であり、その為にも「百姓」という言葉の裏側にある地方蔑視の考えを変えて行かなければならないと述べていました。

20世紀後半にサッチャーイズムやレーガノミクスなるものが台頭し、市場原理最優先とされました。規制緩和という「美辞麗句」の下に進むそうした新自由主義に立った今日の政治について、改めて考えさせられた2日間でした。



「警戒地域は時間が止まったまま」浪江駅前

福島県で開催され全国から約40人が参加し東京電力福島第1原発事故の被災地を視察した。（盛岡地本からは佐々木委員長、及川教宣部長、小泉青森支部執行委員が参加）

第1日目は、福島駅前集合しバスで視察を行った。バスが飯館村に入ると黒いフレコンバック（除染で出た放射性物質を含む汚泥等を保管する容器）が大量に山積みしているのが目に入った。民家では貯蔵する場所がなく、庭先に放射線のゴミが積まれている。中間貯蔵施設に行くまでの仮置き場という説明であったが、除染を進めるにあたり大きな課題のひとつである。原ノ町駅では3・11以降、取り残された特急「スーパひたち」4両が放置されていた。色あせ黒ずんだ汚れが痛々しかった。浪江駅は警戒区域であるため、予め許可を申請しなければ立ち入り出来ない。出入り口では警備員にチェックを受けてから駅に向かった。無人の商店街、傾斜し潰れた家は手つかずの状況で、あの日から時間が止まったままである。元の生活に戻るのには

1日目を終了した。第2日目は、「労働法制見直しと働き方」と題し、佐々木良博弁護士（盛岡市）を講師に迎え東北労働講座を開催した。佐々木弁護士は「安倍首相は労働法制の大改悪を急いでいる。労働組合として今後の取り組みが重要」と約90分にわたり講義を行った。

全体集会では、菊池要執行委員が「組織拡大は時機を逃すことなく、しっかりと取り組んで行くことが大事」と発言した。

2日間で議論した内容を職場・分会に持ち帰り、組合員に伝えていくことが重要である。次回は、若い組合員がたくさん参加し交流できる労働講座にしたい。

いつの日か、原発事故は全てをダメにする。一行を乗せたバスは、一般車の通行規制が解除となった原発に程近い国道6号線を走行。双葉町に入った途端、バス車内に持ち込んだ線量計の警報音が一斉に鳴った。また、バス車内から福島第1原発が見える大熊町では9μSv/hまで一気に上がった。恐ろしいのは放射能を浴びている実感が無く、改めて見えない放射線の恐怖を感じた。

第2日目の交流学習会は、地元地本・支部から100人を超える仲間が参加して開催された。講演では、大内良勝さん（福島県平和フォーラム）吉田有紗さん（前高橋生平和大使）から、原発事故の状況や平和大使の活動について報告をいただいた。盛岡地本から小泉正直青森支部執行委員が、核燃施設をめぐる青森県内情勢を参加者に訴えた。福島の実状を見通しては、安心・安全な社会は望めない。風化させず脱原発・原発再稼働反対運動を各地域から強めていく必要がある。



1区佐藤選手（家族）から3位でたすきが2区の八嶋選手（青森運輸区分会）へ

第19回東日本本部マラソン大会

駅伝・盛岡チームが3位

駅伝19チーム・個人64人が参加

第19回東日本本部マラソン大会が11月15日（土）快晴の中、皇居外周マラソンコースで開催された。駅伝に19チーム114人、個人に64人が参加した。盛岡からは駅伝チーム6人と個人に5人の11人が

参加した。駅伝は13時15分にスタート、地本チームは1区の佐藤選手が3位で2区八嶋選手へ、八嶋選手は1人抜き3区黒井選手へ、黒井選手も1人抜きトップで4区の米田選手へ、米田選手はトップを守り5区の菊池選手へ、菊池選手の頑張りも2人抜き3位で6区吉田選手へ、吉田選手が最後の踏ん張りを見せそのま3位でゴールした。優勝は1時間18分00秒で長野地本Aチーム12時15分スタートの個人は佐々木選手の14位が最高。盛岡の駅伝・個人の成績は次の通り

- ▽4区（2・5キロ）
米田 勝義（盛岡運輸区分会）10分33秒（区間6位）
▽5区（2・5キロ）
菊池 憲光（盛岡運輸区分会）11分40秒（区間8位）
▽6区（5キロ）
吉田 雅美（盛岡電気分会）21分00秒（区間10位）
▽トータル 1時間20分07秒
- 【個人成績】
佐々木義仁（盛岡運輸区分会）第14位 22分27秒
佐藤 隆文（OB）第16位 22分40秒
村上 敏光（OB）第18位 23分14秒
花田 長蔵（北上工務分会）第33位 25分31秒
梅沢 昇（盛岡貨物分会）第51位 27分13秒
- ▽1区（5キロ）
佐藤 賢哉（家族）16分59秒（区間3位）
▽2区（2・5キロ）
八嶋 昌二（青森運輸区分会）9分52秒（区間4位）
▽3区（2・5キロ）
黒井 恒夫（宮古地域分会）10分03秒（区間3位）

時間が止まったままの被災地 風化させず脱原発・再稼働反対を

国労本部が主催の第2回国労フクシマ交流・視察学習会が11月29日・30日の2日間、

第11回国労東北労働講座は11月24日・25日の2日間、盛岡市つなぎ温泉「愛真館」で開催され、55人（盛岡地本は16人）が参加した。

第1日目は、東北協議会の大沼元事務局長による開会のあいさつで始まり、佐藤浩一議長があいさつを行った。国労本部の菊池忠志書記長と東日本本部の佐藤正行書記長より、それぞれ取り組みと課題の強化について「報告を受け

職場活動報告では6人が発言し、盛岡地本からは米田勝義さん（盛岡運輸）小原典昭さん（青森駅連合）が組織拡大の取り組みについて報告した。貨物協議会から高橋涼さん（盛岡貨物）が厳しい貨物の実態を報告した。その後、交運共済東北支所の太田博二副本部長より「共済事業活動の強化について」報告を受け

労働法制の大改悪反対 労働組合の取り組みが大事

「国労東北協議会労働講座」

<p>固定金利選択型住宅ローン 特約期間2年 特約期間中は金利・返済金固定</p> <p>年0.80% ⇒ 引下げ後金利 ⇒ 年0.70%</p>	<p>マイカーローン</p> <p>固定金利 5年 ご融資期間 5年以内 保証料込</p> <p>年2.50% または 年3.00%</p> <p>●「団体会員の方」「団体会員以外の方」で金利が異なります。 ●固定金利型（ご融資期間5年超7年以内、7年超10年以内）、変動金利型（ご融資期間10年以内）もご用意しています。</p>	<p>教育ローン</p> <p>固定金利 5年 ご融資期間 5年以内 保証料込</p> <p>年2.50% または 年3.00%</p> <p>●「団体会員の方」「団体会員以外の方」で金利が異なります。 ●固定金利型（ご融資期間5年超7年以内、7年超10年以内）、変動金利型（ご融資期間15年以内）もご用意しています。</p>
<p>全期間固定金利型住宅ローン 返済金・金利が変わらないので安心</p> <p>年2.05% ⇒ 引下げ後金利 ⇒ 年1.95%</p>	<p>上記適用金利 お取り扱い期間 >> 2014年10月1日から2015年3月末 お申込み・実行分まで</p> <p><問い合わせは> 東北労金へ ☎ 0120-1919-62</p>	